

○教員公募

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 教授(時限 5年) 1名
2. 所 属: 地震火山噴火予知研究推進センター
(予定)
※平成 21 年度から始まる「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」に合わせて、現在の地震予知研究推進センターを拡充再編し、全国の地震・火山噴火予知研究の一層の推進を図る予定です。
3. 研究分野: 地震火山噴火予知研究分野
主に国内大学を中心とする地震・火山噴火予知研究全般の企画・立案に主体的に関与し、研究計画の実施にも携わる。地震・火山関係の研究経歴をもつことは必須であるが、学術業績に偏ることなく、高いプロジェクト・マネジメント能力をもつ人材を求める。予知研究の後継者育成の観点から、大学院教育にも携わる予定。
4. 採用予定時期: 平成 21 年 4 月 1 日以降、できるだけ早い時期。
5. 応募資格: 博士の学位を有する者(外国での同等の学位を含む)。
6. 任期について: 本公募ポストには 5 年の時限が付されています。また、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできません。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類:
 - (1) 履歴書(市販用紙可)
 - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む)、及びマネジメントしたプロジェクトの一覧
 - (3) 主要論文の別刷り 3 編程度(コピー可)
 - (4) 研究業績及びプロジェクト等のマネジメントに関する実績の概要(2000 字程度)
 - (5) 全国の地震・火山噴火予知研究推進に関する抱負及び今後の研究計画(2000 字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名と連絡先と e-mail アドレス

【提出書類は返却しません。また応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。】
8. 公募締切: 2008 年 11 月 28 日(金) 16:00 必着
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所地震予知研究推進センター 吉田真吾
TEL: (03)-5841-5814
E-mail: shingo@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所事務部庶務チーム(人事)宛

封書を用い、表に「地震火山噴火予知研究教授応募書類」と朱書き書留郵便で送付してください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 6 日送信しました)

○研究集会のお知らせ

平成 20 年度 京都大学防災研究所 研究集会(20K09)「火山噴火機構の解明とモデル化—高度な噴火予知を目指して—」

日時: 平成 20 年 9 月 11 日 13 時半から 9 月 12 日 15 時

場所: 京都大学防災研究所 宇治キャンパス E320-D

※耐震工事中とのことです。下記 URL より案内図をご利用ください。

<http://www.zisin.geophys.tohoku.ac.jp/~nishi/tmp/Access.pdf>

問い合わせ先: 西村太志(nishi@zisin.geophys.tohoku.ac.jp) 9 月 11 日

13:30 西村太志 はじめに

13:40 中道治久・木股文昭・山崎文人(名大・環境学)・熊谷博之・中野 優(防災科研)・大久保慎人(東濃地震科研)

2007 年御嶽山の微噴火にいたるまでの地震活動

14:00 Hetty TRIASTUTY, Masato IGUCHI and Takeshi TAMEGURI (Kyoto Univ)

Temporal change of characteristics of high-frequency earthquakes associated with increase in volcanic activity at Kuchinoerabujima volcano, Japan

14:20 中村美千彦・佐藤典子・吉瀬 毅(東北大・地惑)・安井真也(日大・文理)

間欠的な爆発的噴火の火道内プロセス: 噴出物の岩石学的解析から

14:40 森 健彦(産総研)・及川光弘(海上保安庁) 平林順一(東工大)・井口正人・為栗 健(京大防災研)

諏訪之瀬島の噴火に関連した二酸化硫黄放出率の短時間変動について

15:00 嶋野岳人(富士常葉大学)・井口正人(京大防災研)

噴火現象の変動メカニズム解明のための物質科学的アプローチ

休憩(10分)

15:30 立尾有騎・井口正人(京大・防災研)

桜島南岳における B 型地震群発および火山性

- 微動発生に先行する地盤変動について
- 15:50 大湊隆雄 (東大・地震研)
噴火時に観測される長周期地震波形の多様性
- 16:10 八木原 寛・萩原慎太郎 (鹿児島大・理)・為栗 健・井口正人 (京大防災研)
諏訪之瀬島火山の2006年2月の爆発的噴火で観測された傾斜変化
- 16:30 井口正人・横尾亮彦・為栗 健 (京大・防災研)
火山爆発に伴う膨張過程について
- 16:50 後藤章夫 (東北大・東北アジア), Maurizio Ripepe, Giorgio Lacanna (フィレンツェ大)
ストロンボリ火山での空振と映像の同時観測
- 17:10 横尾亮彦・為栗 健・井口正人 (京大・防災研)
桜島山頂噴火における火口底破壊過程
- 17:30 太田雄策, 植木貞人, 三浦 哲, 佐藤忠弘 (東北大・予知セ)
キネマティック GPS による火山体監視の可能性と問題点
- 19:00 懇親会
- 9月12日
- 9:00 篠原宏志 (産総研)
火道内マグマ対流と火山爆発
- 9:20 西村太志 (東北大・地物)
繰り返し噴火に先行する山体膨脹
- 9:40 三輪学央・寅丸敦志 (九大・地惑)
マグマプラグ内流体の量と状態: 桜島ブルカノ式噴火前の増圧における重要性
- 10:00 市原美恵 (東大・地震研)・Maurizio Ripepe (フィレンツェ大)・後藤章夫・谷口宏充 (東北大・東北アジア)・大島弘光 (北大・理)
埋設発破に伴う表面現象の相似則と媒質依存性—火山爆発に伴う空振と噴煙の解説に向けて—
- 10:20 亀田正治・島貫 延・栗原秀哲 (東京農工大・機械システム工学)・市原美恵 (東大・地震研)
急減圧にともなう発泡マグマ破碎過程の解明休憩 (20分)
- 11:00 綿田辰吾 (東大・地震研)
微気圧データから見るカルデラ形成過程 (その1) —地表変形により発生する大気圧変化の基礎理論—
- 11:20 吉村俊平・中村美千彦 (東北大・地惑)
多成分系における気泡と非平衡流体の化学的相互作用
- 11:40 橋本武志 (北大・理)

火道内過程による電磁場変動
昼食 (60分)

- 13:00 小園誠史 (東大・地震研)
一次元定常火道流の解析的研究: 火山観測データとの比較
- 13:20 鈴木雄治郎 (海洋研究開発機構)
数値モデルによる火山噴煙シミュレーションの現状
- 13:40 藤田英輔 (防災科研)
粒子法によるマグマ貫入シミュレーション
- 14:00 寅丸敦志 (九大・地惑)
マグマの発泡と火山性微動
- 14:20-15:00 総合討論
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月3日送信しました)

○Project IBM Seminar

【独立行政法人海洋研究開発機構】

伊豆弧における地球深部探査船「ちきゅう」を用いた超深海底掘削提案は科学計画委員会 (SPC) における検討段階にはいった。一方 IBM における近年のマントルー地殻構造や島弧地殻進化の研究は目覚ましく進展している。Project IBM Seminar は、日本と JAMSTEC が先導すべきサイエンスと掘削の実行化に向けての準備を議論する場としたい。しかし、なによりも新しい成果を議論することはエキサイティングである。(田村芳彦, 小平秀一, 巽 好幸)

Place: Yokosuka Main Building 1st floor Seminar Room, JAMSTEC

Time & Date: October 16 (Thu), 1300~1800

1300-1330. Shuichi Kodaira (IFREE, JAMSTEC)

Seismological constraints on crustal formation processes in the Izu-Bonin intra-oceanic subduction zone

1330-1400. Narumi Takahashi & Mikiya Yamashita (IFREE, JAMSTEC)

Structural change of the Izu-Ogasawara arc crust by backarc opening process

1400-1430. Takehi Isse (ERI, Univ. of Tokyo)

Seismic structure of the upper mantle beneath the Philippine Sea from seafloor and land observation: implications for mantle convection and magma genesis in the Izu-Bonin-Mariana subduction zone

1430-1500. Osamu Ishizuka (GSJ/AIST)

Chasing the earliest record of Izu-Bonin-Mariana arc magmatism - Progress report-

..... Coffee Break

1530-1600. Yoshihiko Tamura (IFREE, JAMSTEC)
Silicic Magmas in the Izu-Bonin Oceanic Arc and Implications for Crustal Evolution

1600-1630. Hiroshi Kawabata (IFREE, JAMSTEC)
A magma genesis model for Eocene to Oligocene boninite and tholeiite

1630-1700. Kenichiro Tani (IFREE, JAMSTEC)
Crustal evolution of the Izu-Bonin Arc: new constraint from high-precision geochronology and geochemistry

1700-1730. Koichiro Obana (IFREE, JAMSTEC)
Seismicity and upper mantle structure in Northern Izu-Bonin arc by Ocean Bottom Seismograph Observation

1730-1800. Takeshi Sato (IFREE, JAMSTEC)
Nature of the crust-mantle transition layer deduced from seismic amplitude modeling

1800- 懇親会 (8階ドローイングルーム)

問い合わせ先

Yoshihiko Tamura

Group Leader

Institute for Research on Earth Evolution (IFREE)

Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC)

Yokosuka 237-0061, Japan

DIR +81-46-867-9761

FAX +81-46-867-9625

E-mail: tamuray@jamstec.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月18日送信しました)

○国際シンポジウムのお知らせ

12月1日～2日にインドネシア・バンドン市で「火山災害評価のための火山噴火のモデルに関するアジア国際シンポジウム」が開催されます。12月3～4日には、昨年12月に噴火した KELUD 火山を巡検します。

下記 URL にてファーストサーキュラーをご覧ください。

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/VRC/final_circular1-ok.pdf
皆様の参加をお待ちします。

問い合わせ先:

京都大学桜島 井口 (iguchi@svo.drpi.kyoto-u.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月18日送信しました)

○シンポジウム開催のお知らせ

【富士学会】

以下のシンポジウムを行いますので、御関心をお持ちの方はふるって御出席ください (小森次郎・遠藤邦彦)。

富士学会 第7回シンポジウム「高山地域の災害と環境—富士山を中心に—」

大きな存在感と様々な魅力を持つ富士山には、その一方で防災や環境問題といった避けて通ることのできない課題があります。同時にこれらの課題は他の高山地域に通じるものでもあります。そこで富士学会では、富士山を中心とした高山地域の災害と環境について、防災・雪氷・地形・観光など、多角的な視点によるシンポジウムを企画しました。当日は、融雪災害、永久凍土の現状、観測・監視体制の紹介など12件の講演を行い、富士山や山岳観光地との適切なつきあいかたの将来像を考えます。

◆2008年10月18日(土)10時～17時

◆日本大学文理学部 図書館3階オーバルホール
京王線下高井戸駅 南口徒歩12分
(世田谷区桜上水3-25-40)

◆入場無料、事前申し込み不要

◆主催: 富士学会, 日本大学文理学部。

協力: 寒冷地形談話会

◆オーガナイザー: 佐野 充・小森次郎・荻谷愛彦・遠藤邦彦・藁谷哲也

◆問い合わせ: 富士学会事務局 fujisan@chs.nihon-u.ac.jp

◆プログラム

10:00 趣旨説明 遠藤邦彦 (日本大)

10:05 富士山の地形の特徴 千葉達朗 (アジア航測)

10:25 雪代(ゆきしろ)研究のこれまでとこれから
—地球温暖化時代の液状化雪崩現象の実態—

安間 荘 (法地学研究所)

10:45 富士山南東斜面のスラッシュ雪崩

小森次郎 (日本大)

11:05-11:15 休憩

11:15 富士山地震観測網によるスラッシュ雪崩の検知
鶴川元雄 (防災科学技術研究所)

11:35 富士山周辺で発生するスラッシュ雪崩の発生予測手法の検討 中川達也・三輪賢志
(国土交通省富士砂防事務所)

11:55 噴火と融雪泥流 伊藤和明 (防災情報機構)

12:15-13:30 休憩

13:30 高山の災害と環境問題 —カラコラム山地を事例に— 藁谷哲也 (日本大)

13:50 富士山で発生する火砕流 田島靖久 (日本工営)

14:10 出る杭は打たれる? —大沢崩れから最終氷期の
大崩壊まで—

町田 洋 (東京都立大学名誉教授)

14:30-14:45 休憩

14:45 富士山の永久凍土 —若手研究者による総合調査開始— 池田 敦 (筑波大)

15:05 地形変化と登山事故 —北アルプス白馬大雪溪
における最近の研究事例—

荻谷愛彦（専修大）

15:25 富士山の災害・環境と観光

佐野 充（日本大）

15:45-16:00 休憩

16:00 総合討論

16:50 総 括

17:00 閉 会

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました）

○火山防災委員会の開催について

2008年度秋季大会期間中に、火山防災委員会を下記よう
に開催いたしますので、ご参集ください。

日本火山学会 火山防災委員会

世話人：荒牧重雄，中村洋一，藤田英輔

期 日：2008年10月11日17:30-19:30

会 場：A会場（工学部1号館テクノホール）

テーマ：「噴火シナリオ」

噴火警報・噴火警戒レベルの導入に伴い、火山周辺の自治体では具体的な避難計画策定作業が始まっている。この計画にはあらかじめ想定される「噴火シナリオ」が必要となる。「噴火シナリオ」をどのように作るのか、業務的に行われている気象庁における先行事例と研究者側からみた「噴火シナリオ」策定のポイントについて議論する。

プログラム

○趣旨説明：荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔

○噴火シナリオの作成事例の紹介

1. 樽前山・雌阿寒岳における噴火シナリオの作成
菅野智之（札幌管区気象台）
2. 噴火予知連伊豆部会で検討された伊豆大島噴火シナリオの紹介
渡辺秀文（東大地震研）
3. 那須岳における噴火シナリオの検討状況
中村洋一（宇都宮大）
4. イタリアにおける噴火確率評価プログラム BET の概要
藤田英輔（防災科研）

○全体討論

○その他 事務連絡等

.....

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。

また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月3日送信しました）

○お知らせ「新たな地震調査研究の推進について」

日本火山学会会員各位

地震調査研究推進本部事務局より、このたびまとめられた「新たな地震調査研究の推進について」の中間報告に対するパブリックコメントの案内が、関係学会にありました。本年7月に、地震予知と火山噴火予知に関する計画が一本化された建議が出されたことから、「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について」（建議）との関係についても言及されています。

ご意見のあるかたは、以下の通知を参考に、文部科学省研究開発局地震・防災研究課 新総合基本施策担当宛に意見を提出ください。提出期限は本年10月2日必着となっています。

日本火山学会 会長 石原和弘

.....

「新たな地震調査研究の推進について」に関する意見募集の実施について

日頃より大変お世話になっております。

地震調査研究推進本部事務局（<http://www.jishin.go.jp/main/welcome.htm>）です。

これまで地震調査研究は平成11年に策定された「地震調査研究の推進について」に基づいて実施されてきましたが、策定から10年程度が経過したことに加えて、地震調査研究を取り巻く環境の変化があることから、今後10年の我が国の地震調査研究の基本となる計画「新たな地震調査研究の推進について」の策定に向けて、昨年10月から継続的に議論をして参りました。

この度、「新たな地震調査研究の推進について」の中間報告をまとめることができましたので、広く皆様の御意見をいただくため、意見募集を実施しております。

つきましては、本件について貴学会の関係の皆様にも広くご周知いただき、ご意見をいただければ幸いです。なお、意見の提出につきましては、下記の要領にてご提出いただきますようお願いいたします。

【1. 中間報告の具体的内容】

[http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010 & BID = 185000338 & OBJCD = 100185 & GROUP =](http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010&BID=185000338&OBJCD=100185&GROUP=)

【2. 意見の提出方法】

- (1) 提出手段 郵送・FAX・電子メール

(電話による意見の受付は致しかねますので、御了承ください)

(2) 提出期限 平成 20 年 10 月 2 日 必着

(3) 宛先 住所:

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

文部科学省研究開発局地震・防災研究課

新総合基本施策担当 宛

FAX 番号: 03-6734-4139

電子メールアドレス: jishin@mext.go.jp

(判別のため、件名は【新総合基本施策への意見】

として下さい。また、コンピューターウィルス対策のため、添付ファイルは開くことができませ

ん。必ずメール本文に御意見を御記入下さい)

【3. 意見提出様式】

「○○○○への意見」

- ・ 氏名
- ・ 性別, 年齢
- ・ 職業 (在学中の場合は「高校生」「大学生」など在学习する学校段階を表記。)
- ・ 住所
- ・ 電話番号
- ・ 意見

※ 複数の論点について御意見をお寄せいただく場合には、とりまとめの都合上、論点毎に別様としてください。(1 枚 1 意見, 1 メール 1 意見としてください。)

【4. 備考】

- ① 御意見に対して個別には回答致しかねますので、あらかじめ御了承願います。
- ② 御意見については、氏名、住所、電話番号を除いて公表されることがあります。なお、氏名、住所、電話番号については、御意見の内容に不明な点があった場合の連絡以外の用途では使用しません。

(研究開発局 地震・防災研究課)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 12 日送信しました)

○地球惑星科学連合の法人化 (意見募集)

日本火山学会員の皆様

これまで任意団体であった地球惑星科学連合は、この

12 月に社団法人 (一般) の申請を行い、その後、公益社団法人化することめざして準備を進めています。本学会からは将来計画委員会委員がこの準備会に参加しています。

法人化準備委員会では 5 つのワーキンググループ (財務, 会員管理, セクション制, 大会運営事業計画, ジャーナル発行事業計画) を作り、法人の在り方や制度設計について議論を進めて来ました。このほど一般社団法人地球惑星科学連合の定款案が固まりましたので、それについて会員の皆様からご意見をいただくことになりました。来週の盛岡総会においては、日本火山学会が団体会員になることと、この定款の了解をとりつけたいと考えています。

法人化移行へのポイントは以下です。

- ・ 学協会は団体会員、会員は個人会員として登録します。個人会員は 6 つのセクション (宇宙惑星科学, 大気海洋, 環境科学, 地球人間環境科学, 固体地球科学, 地球生命科学, 地球惑星科学総合) に登録します。
- ・ セクション毎に代議員を選出し、合計 80-200 名からなる代議員が法人の「社員」となります。
- ・ 年会費は団体が 10,000 円、個人が 2,000 円 (団体会員の個人会員であることは特に考慮されません)。学生会員は無料。会員には合同大会で登録時に割引が適応されます (ただし、非会員でも発表可能ですが、会員の会費+会員登録料と同等かより割高になる予定)。
- ・ 会員登録は来年度合同大会前後に始まり、その後、代議員を選出を実施します (なお、法人設立時は社員を参加学協会の会長群とする)。

定款案は火山学会の HP に掲載中です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/aboutjpgu.html>

なお、法人化に関する詳細情報は以下のページでご覧になることができます。

<http://www.jpгу.org/inside/houjin/index.html>

ご意見は、nakada@eri.u-tokyo.ac.jp までお寄せ下さい。

日本火山学会将来計画委員長

中田節也

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 6 日送信しました)